

今週の
みことば

「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」

(イザヤ書 9 章 1 節～5 節)

「闇の中を歩んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝く。」(9:2)。

(マタイの福音書 4 章 1 2 節～1 7 節)

「この時からイエスは宣教を開始し、『悔い改めなさい。天の御国が近づいたから』と言われた。」(4:17)

今日のメッセージ要旨

◎「人生は出会いによって決まる」とよく言われます。私たちは誰と出会うかが大切です。私たちのことを良く知って招いて下さる御方がおられるのです。

◎イザヤ書 9 章には、神様が預言者イザヤを通して「真の希望とは何か」について語られています。南(ユダ)のアハズの要請にアッシリヤが応え、北王国イスラエルを打ったことが背景にある。アハズは勝利を喜んだ。だがイザヤにとって、北の苦難は同胞の苦しみである。ゼブルン、ナフタリ、ガリラヤ(1)。それはユダから見ると北の果ての地方。一旦はアッシリヤに踏みにじられた地方がその支配から解放され回復を見るという預言。素晴らしい光であるメシヤの来臨をその永遠の希望として告げているのです(1-7)。アッシリヤの支配下に置かれた地方も、やがて栄光に輝くキリスト(メシヤ)の来臨が実現する、との預言なのです。

暗い経験と共に、神様の恵みの光が、ダビデの王座に匹敵する平和の君としてのメシヤの来臨によってもたらされるのです。神様が心を痛められるのは、神様の民が高慢になり、自分の力に頼り、神様に信頼することが無くなることです。その様な者にも神様は尚も招きのことばをかけられるのです。

◎マタイの福音書 4 章には、イエス様が洗礼を受けられた後、荒野の誘惑に遭われ、勝利を得られ、その後、ユダヤとガリラヤを行き来されたのです(ヨハネ1:29, 3:36)。イエス様はヨハネの投獄を知ってガリラヤに退去されましたが、それは、ご自分が宣教に立つべきことを確信して、宣教を開始されたのであり、イザヤを通して預言されたことの成就でもあったのです。

◎ガリラヤは肥沃の地で人口が多く、交易も盛んで、新しいものに開かれた土地であり、山岳地帯のユダヤが閉鎖的であったのとは対照的なのです。イエス様は育ったナザレではなく、ガリラヤ湖畔の町カペナウムに移られたのです。ユダヤ人であれば普通メシヤの活動の中心はエルサレムと考えますが、イエス様はそうではなかったのです。「ゼブルンの地とナフタリの地」であるカペナウム、異邦人が多く住む故、ユダヤ人から「異邦人のガリラヤ」と蔑まれている地方、霊的暗黒であった人々が、メシヤの活動によって偉大な光を見たのです。

◎主イエス様の宣教の第一声は「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」(17)でした。これは洗礼者ヨハネと同じメッセージで、ヨハネが予告した御国の到来が主イエス様によって実現したことの招きなのです。パウロの宣教の姿勢は「ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。」にあります(使徒20:21)。神様は「あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。」と今も招いておられるのです(同3:19)。私たちも悔い改めていつも神様に立ち返りましょう。